

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立南中学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語科では、文脈に即して正しく漢字を書く力や、表現の技法について理解する力など、言語の特徴や使い方に関する事項についての正答率が全国平均よりも高い傾向にあります。	(1) 聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する力や、事象や行為、心情を表す語句の理解などが低い傾向にあります。また、記述問題の無回答率も高い傾向にあり、自身の考えを表現するために必要とされる力をより育んでいく必要があります。
(2) 数学科では、「関数」の分野において、一次関数の変化の割合の意味を理解している生徒や、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができる生徒の割合は、全国平均よりも高い傾向にあります。	(2) データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力が低い傾向にあります。また、記述問題の無解答率が高い傾向があります。根拠を明らかにして説明したり検討したりする場を設定し、考えるための時間を十分に確保していくことが大切です。
(3) 理科では、与えられた図や表から必要な情報を適切に読み取ることや、ある基準をもとにして比較をし、解釈できるかどうかを図る設問において、正答率が全国平均よりも高い傾向にあります。	(3) 身に付けた知識と日常生活における経験を関連付け、科学的に探究する力が低い傾向にあります。また、記述問題の無回答率が高い傾向にあるため、実験の計画を検討したり、改善したりする学習場面を設定し、深く探究する力をより育んでいくことが必要とされます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 国語科では、継続的に漢字の小テストを実施してきたことが、基礎的、基本的な知識の定着につながっています。その一方で、コロナ禍もあり、伝え合う力を育んでいく場の設定が困難であったことから、自身の考えの表現の仕方や伝え方について、今後更に工夫をしていく必要があると考えられます。
(2) 数学科では、基礎・基本の定着のために、練習用のプリントを配付することで、反復学習の機会を増やしました。一方で、対話的な学習の機会が不足し、説明することに課題がみられます。問題を解決するための根拠を示したり、式や図などを活用して数学的に説明する機会を増やすなどの工夫をしていく必要があると考えられます。
(3) 理科では、対話的な学習の機会を多く取り入れてきたことが、基礎・基本の定着につながっています。一方で、コロナ禍もあり、課題を解決するために実験を計画し、実施し、改善していく場の設定が困難であったことから、科学的に探究する機会を増やすなどの工夫をしていく必要があると考えられます。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 「自分にはよい所がある」「自分と違う意見を考えることを楽しい」「人がこまっている時は進んで助ける」の3点について平均が低いということがわかります。人との関わりで育まれるものがあるので、コロナ感染症対策を踏まえたうえで、多くの話し合い活動や行事を取り入れ、他者の気持ち考えを取り入れられる状況を作り出していくことが必要です。
(2) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器(インターネット検索など)の利用率が大変高いことがわかります。学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面でのICT機器の利用の部分は、平均的です。さらに活用を進める段階で、ICT機器の発展的な利用方法を模索して行く必要があります。
(3) 質問紙から、携帯電話、スマートフォンやコンピューターの使い方について、約束を守っている生徒が多いことがわかります。課題として、ゲームの時間、SNS、動画視聴の時間が長い生徒が多くなっています。利用方法や時間の長さを家庭内で相談していただくとともに、学校においては保健の授業、携帯の使い方教室等を利用してより良い使い方について指導して参ります。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

生徒の生活は、学校における生活と共に家庭や地域社会において営まれています。地域活動の重要性について学習したことを、生徒が生活の基盤をおく家庭や地域において、学習の成果として肯定的に受け止めていただくことで、一層の活動の活性化へ結びつくと考えています。また、地域での活動、スポーツ、行事が多く、活動に参加する生徒が多い傾向が見られます。地域や社会のために何をすべきかを考えられる生徒は、少ない傾向が見られることから、新型コロナウイルス感染拡大の中で多くの活動が制限される中ではありますが、生徒のボランティア活動への積極的な参加を考えております。
